

「魚を育てる森」

【指導計画(全5時間)】

過程	主な学習活動	時間	学習への支援	評価規準		
				国語への 関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	言語についての 知識・理解・技能
	<p>改まった場面での話し方を振り返る。</p> <p>本文を読んで各自でスピーチのテーマを考える。</p> <p>各自で考えたスピーチのテーマを発表し、検討する。</p>	1	<p>・二つのロールプレイングを見る活動を通して、改まった場面で話すことの難しさや必要性に気付くことができるよう支援を行う。</p> <p>・一人一人の生徒が、スピーチのテーマを自分なりに考えることができるよう、本文中にでてくる「もの」や「ひと」を確認したり、テーマを例示したりして支援を行う。</p> <p>・スピーチ可能なテーマかどうかを検討するため、各自が考えたテーマをグループで発表したり、本文の情報を確かめたりする活動を支援する。</p>	<p>スピーチのテーマを自分なりに考え、ノートに書いたり、発表したりしている。</p> <p>(十分満足とする状況・態度) ・相手や目的を様々な設定し、3つ以上のテーマを記述している。</p> <p>(努力を要する状況)への方策 ・一つでもノートに書き出せたことを、賞賛したり励ましたりして他の生徒へ広げ、活動の意欲化を図る。</p>	<p>目的や相手を明確にしてスピーチのテーマを発表している。</p> <p>(十分満足とするキーワード) ・根拠を明確にして</p> <p>(努力を要する状況)への方策 ・テーマが具体的に思いつかない生徒に対しては幾つかのスピーチのテーマを具体的に例示して手がかりとなるようにする。 ・本文中の「もの」や「人」を確認して、その立場ならばどんな内容でスピーチができるかを考えるよう助言を行う。</p>	<p>場の状況に応じた適切な音量や速さで話している。</p> <p>(十分満足とするキーワード) ・聞き手の分かりやすさに配慮した音量や速度、言葉の調子で</p> <p>(努力を要する状況)への方策 ・話し手に対しては、発表内容に自信をもつことができるよう励ますとともに、受容的な聞き方ができるよう、聞き手にも助言を行う。</p>
	<p>「魚が腐植土の大切さを人間に訴えるスピーチ」(スピーチ)を構想する。</p> <p>スピーチを聞き合う。</p>	1	<p>・スピーチの内容を構想するため、話す目的や相手を明らかにしたり、内容に盛り込む必要のある情報を確認したりして支援を行う。</p> <p>・自分なりにスピーチメモを作成することができるよう、必要な情報を収集したり、収集した情報を生かしてメモを作成したりする活動を支援する。</p> <p>・作成したメモを基に、自分なりにスピーチをすることができるよう、グループでの聞き合いを支援する。</p>	<p>腐植土の大切さを、書いたメモをもとにしてスピーチしている。</p> <p>(十分満足とする状況・態度) ・聞き手の分かりやすさを考えながら自分なりにメモの書き方や話し方を工夫して話している。</p> <p>(努力を要する状況)への方策 ・一人一人が自分なりにがんばってスピーチをする姿勢を、認め励ましていくことで、活動の意欲化を図る。 ・メモづくりの際の支援を十分に行い、一人一人の生徒が話す内容をもつことができるようにする。</p>	<p>腐植土が大切なわけメモにまとめ、自分なりにスピーチしている。</p> <p>(十分満足とするキーワード) ・聞き手を意識しながら、メモの書き方や生かし方を工夫して</p> <p>(努力を要する状況)への方策 ・キーワードが見つからない生徒に対しては、板書中の言葉を手掛かりにするように助言する。 ・キーワードが一つの話にまとまらない生徒に対しては、スピーチを例示し、自らの話をまとめていく手がかりとなるようにする。</p>	<p>声の速度や大きさに注意して話している。</p> <p>(十分満足とするキーワード) ・聞き手が分かりやすいように、声の速度や大きさ、間や抑揚などに注意して</p> <p>(努力を要する状況)への方策 ・聞き手からの助言をもとに、自分の声の大きさや速さを調節するようにアドバイスをする。 ・見取った個の状況に応じて、声の大きさや速さなど、具体的に助言を行う。</p>
見直し1	<p>スピーチと同じテーマのモデルスピーチを聞き比べ、メモを見比べて、分かりやすいスピーチをするための観点を記述する。気付いた理由を発表し合う。</p> <p>分かりやすいスピーチをするための観点を、整理する。</p>	1	<p>・分かりやすいスピーチをするための観点到るに気付くことができるよう、二つの対照的なスピーチ(モデルスピーチ)を聞き比べたり、メモを見比べて行う活動を行う支援する。</p> <p>・気付いた観点を、「分かりやすいスピーチをするための技一覧」として、スピーチ上達シートに整理する。</p>	<p>モデルスピーチが分かりやすい理由を、自分なりに記述したり発表したりしている。</p> <p>(十分満足とする状況・態度) ・メモの書き方や生かし方の多様な観点から記述したり、発表したりしている。</p> <p>(努力を要する状況)への方策 ・一つでも気付いたことを他の生徒に広め、活動の意欲化を図る。 ・発表の際には意図的指名を取り入れ、一人一人の気付きを全体の学習に生かしていくことで、達成感をもつことができるようにする。</p>	<p>分かりやすいスピーチをするためのメモの書き方や生かし方を、具体的に記述している。</p> <p>(十分満足とするキーワード) ・メモの書き方と生かし方を関連づけて</p> <p>(努力を要する状況)への方策 ・「どちらのスピーチが、なぜ分かりやすいのか」という課題を、常に明確にして、聞き比べたり見比べたりする活動を行う。</p>	<p>声の速度や大きさ、間の取り方や言葉の調子の違いから、分かりやすい理由を記述している。</p> <p>(十分満足とするキーワード) ・分かりやすさと声の大きさや速度、間や抑揚とを関連づけて</p> <p>(努力を要する状況)への方策 ・分かりやすい理由を考え、声の大きさや速さなど具体的な観点を助言して、違いに気付くことができるようにする。</p>
見直し2	<p>「腐植土が自らの大切さを訴える内容のスピーチ(スピーチ)を構想する。</p> <p>メモをもとにスピーチを聞き合う。聞き手が分かりやすいスピーチの改善策を考える。</p>	1	<p>・キーワードで書いたメモを基に、聞き手を見ながらスピーチできるよう、目的や相手を確認したり、練習の際にアドバイスを発行したりする。</p> <p>・達成感をもつことが出来るよう、「よくできた」と判断した観点については、スピーチ上達シートの項目を消す活動を行う。</p>			

<p>「筆者が魚を増やすための方法を説明する内容のスピーチ（スピーチ）のメモを作成する。</p> <p>メモを基にスピーチを聞き合い、聞き手からの評価を基に、自らのスピーチの改善点を考える。</p>	<p>・構成や話し方を工夫した分かりやすいスピーチができるよう、目的や相手を確認したり、練習の際にアドバイスを言ったりする。</p> <p>・達成感をもつことが出来るよう、「よくできた」と判断した観点については、スピーチ上達シートを消す活動を行う。</p> <p>・自らのスピーチの課題や改善の手がかりをつかむことができるよう、「よくできていた観点」を教え合う活動や互いのメモを見比べる活動を行って支援する。</p>	<p>魚を増やすための方法を聞き手に分かってもらえるよう、結論の位置や話し方を工夫して聞き手に分かりやすく話そうとしている。</p> <p>(十分満足とする状況・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の観点もたくさん取り入れている。 ・聞き手への分かりやすさを考えながら、何度も練習したり、メモを修正したりして ・気付いた工夫を、主体的に取り入れている <p>(努力を要する状況)への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ上達シートやメモに表れた個々の進歩を他の生徒に広げ、活動の意欲化を図る。 ・次時にベストスピーチを発表し合うことを予告し、活動の意欲化を図る。 ・一度のスピーチで達成できなくてもよいことや、次回も挑戦できることを説明する。 	<p>魚を増やすための方法を聞き手に分かってもらえるよう、結論の位置を工夫したり、話し方を工夫したりして話している。</p> <p>(十分満足とするキーワード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の観点も、効果的に取り入れている ・聞き手に対して最も効果的なメモの構成や生かし方を工夫して <p>(努力を要する状況)への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒のメモを例示し、聞き手に分かるように話すためのメモの書き方の工夫に気付くようにする。 ・聞き手の分かりやすさを考えた構成が工夫できない場合には、構成モデルを例示し、結論の位置による聞き手の分かりやすさの違いを確認する。 	<p>話す速度や音量、間の取り方や言葉の調子を考えて話したり、聞いたりしている。</p> <p>(十分満足とするキーワード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手の分かりやすさを考えた間の工夫や言葉の調子で <p>(努力を要する状況)への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「間や強弱の工夫」が「よくできた」生徒のスピーチを基に、間の位置や間隔、強調する部分などに具体的に気付くようにする。 ・具体的な間の取り方や言葉の調子を参考として例示する。 ・自分の声の大きさや速さを見直すことができるよう、録音機器を活用する。
<p>台紙にはったスピーチメモ～とスピーチ上達シートをもとに、自分や友達のスピーチの上達ぶりを認め合う。</p> <p>第1時に出し合ったテーマから自らのテーマを選び、スピーチを構想する。作成したメモを基に練習する。</p> <p>スピーチを聞き合う。</p> <p>スピーチを自己評価したり、相互評価したりする。</p> <p>見直し3</p>	<p>・互いに分かりやすいスピーチをするための観点が身に付いてきたことに気付き合えるよう、スピーチメモ～の書き方や生かし方の変化を見合う活動を行って支援する。</p> <p>・できるだけ多くの観点が「できた」といえるスピーチができるよう、各自のメモの作成や練習を支援する。</p> <p>1</p> <p>・互いに「話してよかった」と思えるスピーチになるよう、互いのスピーチを聞き合う活動を支援する。</p> <p>・学習に成就感をもつことができるよう、互いのスピーチの上達ぶりを教え合っ ていくようにする。</p>	<p>自分のスピーチをより分かりやすくするためにメモの書き方や生かし方を工夫している。</p> <p>(十分満足とする状況・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し練習をしている。 ・ビデオなどで工夫の効果も何度も確かめている。 ・メモを何度も修正している。 <p>(努力を要する状況)への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ上達シートやメモに表れた進歩を、他の生徒に広げ、活動の意欲化を図る。 ・スピーチ、の取組の様子や表現力の向上を具体的に認め励ますことで活動の意欲化を図る。 	<p>キーワードで書いたメモを基に、構成や間、抑揚を工夫したスピーチをしている。</p> <p>(十分満足とするキーワード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすいスピーチをするための観点を六つ以上、効果的に取り入れている <p>(努力を要する状況)への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチの内容が具体化できない生徒に対しては、スピーチの目的や相手が明確になるように助言を行う。 ・生徒の取組の様子を見取り、教師も聞き役となって助言を行う。 ・練習の際に聞き手の生徒は、さらに分かりやすく話すためのアドバイスをするように助言する。 ・ビデオ機器を活用し、自分のスピーチをさらに分かりやすくするための改善点に気付くようにする。 	<p>話す速度や音量や間、言葉の調子に注意して、話したり、聞いたりしている。</p> <p>(十分満足とするキーワード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に聞きやすい音量や速さで ・効果的な間の取り方で ・話の目的や相手、場に応じた言葉の調子で <p>(努力を要する状況)への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個の状況に応じて、「どこで、どのように間を取るのか」等、具体的に助言していく。 ・自分の声の大きさや速さを見直すことができるよう、録音機器などを活用する。